

腫瘍・診断病理学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Takahara I, Akazawa Y, Tabuchi M, Matsuda K, Miyaaki H, Kido Y, Kanda Y, Taura N, Ohnita K, Takeshima F, Sakai Y, Eguchi S, Nakashima M, Nakao K: Toyocamycin attenuates free fatty acid-induced hepatic steatosis and apoptosis in cultured hepatocytes and ameliorates nonalcoholic fatty liver disease in mice. *PLoS One* 12(3): e0170591, 2017. (IF: 2.806)
2. Doi R, Tsuchiya T, Mitsutake N, Nishimura S, Matsuyama M, Nakazawa Y, Ogi T, Akita S, Yukawa H, Baba Y, Yamasaki N, Matsumoto K, Miyazaki T, Kawahara R, Hatachi G, Sengyoku H, Watanabe H, Obata T, Niklason L, Nagayasu T: Transplantation of bioengineered rat lungs recellularized with endothelial and adipose-derived stromal cells. *Sci Rep* 7(1): 8447, 2017. (IF: 4.259)
3. Yamashita A, Arai H, Torigoe K, Muraya Y, Nakashima M, Obata Y, Nishino T: A case of minimal change nephrotic syndrome complicated by ovarian vein thrombosis. *Acta Medica Nagasakiensia* 61(1): 41-44, 2017.
4. Shichijo K, Fujimoto N, Uzbekov D, Kairkhanova Y, Saimova A, Chaizhunusova N, Sayakenov N, Shabdarbaeva D, Aukenov N, Azimkhanov A, Kolbayenkov A, Mussazhanova Z, Niino D, Nakashima M, Zhumadilov K, Stepanenko V, Tomonaga M, Rakhypbekov T, Hoshi M: Internal exposure to neutron-activated ⁵⁶Mn dioxide powder in wistar rats-Part 2: pathological effects. *Radiat Environ Biophys* 56(1): 55-61, 2017. (IF: 2.398)
5. Stepanenko V, Rakhypbekov T, Otani K, Endo S, Satoh K, Kawano N, Shichijo K, Nakashima M, Takatsuji T, Sakaguchi A, Kato H, Onda Y, Fujimoto N, Toyada S, Sato H, Dyussupov A, Chaizhunusova N, Sayakenov N, Uzbekov D, Saimova A, Shabdarbaeva D, Skakov M, Vurim A, Gnyrya V, Azimkhanov A, Kolbayenkov A, Zhumadilov K, Kairikhanova Y, Kaprin A, Galkin V, Ivanov S, Kolyzhenkov T, Petukhov A, Yaskava E, Belukha I, Khailov A, Skvortsov V, Ivannikov A, Akhmedova U, Bogacheva V, Hoshi M: Internal exposure to neutron-activated ⁵⁶Mn dioxide powder in wistar rats:part 1:dosimetry. *Radiat Environ Biophys* 56(1): 47-54, 2017. (IF: 2.398)
6. Hashiguchi K, Ohba K, Nakashima M: Esophageal keratinous inclusion cyst. *Dig Endosc* 29(5): 639-640, 2017. (IF: 3.238)
7. Kurohama H, Mihara Y, Izumi Y, Kamata M, Nagashima S, Komori A, Matsuoka Y, Ueki N, Nakashima M, Ito M: Protein induced by vitamin K absence or antagonist II (PIVKA-II) producing large cell neuroendocrine carcinoma (LCNEC) of lung with multiple liver metastases:a case report. *Pathol Int* 67(2): 105-109, 2017. (IF: 1.465)

B 邦文

B-a

1. 黒濱大和、岩永直樹、長嶋聖二、田川 努、御手洗和範、三原裕美、福島喜代康、中島正洋、堤 寛、伊東正博: 肺コクシジオイデス症の1例. *診断病理* 34(3):179-183, 2017
2. 橋口慶一、大仁田賢、松島加代子、竹島史直、中島正洋、中尾一彦: 憩室性大腸炎と考えられる1例. *臨床消化器内科* 32(3):356-361, 2017
3. 赤間史隆、能村正仁、増田淳一、堤 卓也、中島正洋、澤井照光: Bartter 症候群に合併した多発肝転移を伴う S 状結腸癌の1例. *長崎医学会雑誌* 92(1):91-97, 2017

B-c

1. 中島正洋: 頭頸部癌学-診断と治療の最新研究動向-. 日本臨牀社 75 巻 増刊号 2 :608-612

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
4	0	5	3	1	28

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	評議員	日本病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本内分泌病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本臨床細胞学会
中島正洋・教授	非常勤研究員	(財)放射線影響研究所

中島正洋・教授	疫学部顧問	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	副会長	長崎県臨床細胞学会
中島正洋・教授	がん対策部会専門委員会(がん登録委員会) 委員	長崎県保健医療対策協議会
中島正洋・教授	代議員	日本細胞診断学推進協会
中島正洋・教授	理事	日本甲状腺病理学会
中島正洋・教授	理事	長崎原子爆弾後障害研究会
中島正洋・教授	特別講師	第44回九州細胞診研修会
七條和子・助教	評議員	日本実験潰瘍学会
七條和子・助教	学術評議員	日本薬理学会
松田勝也・助教	理事	長崎県臨床細胞学会
松田勝也・助教	細胞検査士会 50周年記念事業 実行委員	細胞検査士会

競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) 福島の今後を見据えたチェルノブイリにおける疫学研究の展開
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) 甲状腺発がん予後決定分子機構の解明
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 長崎原爆被爆者腫瘍バンクと網羅的分子病理学的解析研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 放射線誘発甲状腺発がんリスク亢進の刻印探索
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(A) 国際共同研究による甲状腺がん分子疫学調査研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線誘発小児甲状腺がんの分子疫学的研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 甲状腺乳頭癌における新規リンパ節転移診断キットの開発
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) ゲノム不安定性が解き明かす非アルコール性脂肪性肝炎の発癌ポテンシャル
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) ラット甲状腺の放射線感受性と発がんにおけるオートファジーの影響
七條和子・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究(A) カザフ核実験場周辺住民の放射性降下物被曝の実態解明—線量評価及び健康影響解析—

松田勝也・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 尿細胞診でのゲノム不安定性を指標とした低異型尿路上皮癌新規診断マーカーの開発
中島正洋・教授	武田科学振興財団	分担	特定研究助成金 全ヒトゲノム配列で明らかにする放射線被ばく影響の時間的経過とその結果
中島正洋・教授	味の素株式会社		シスチン・テアニンのラット腸管における放射線防護効果の検討
七條和子・助教	エーザイ・ジャパン		放射線腸炎の発生機構について
七條和子・助教	広島大学原爆放射線医科学研究所		Mn-56 低線量内部被曝の生物学的影響とその障害メカニズムの解析

特 許

氏名・職	特 許 権 名 称	出願年月日	取得年月日	番号
平川 宏・助教	癌転移の検出方法および検出用キット	2010年 2月22日	2014年 9月12日	特許第5610125号

その他

非常勤講師

氏名・職	職 (担当科目)	関係機関名
中島正洋・教授	非常勤講師(病理学)	長崎市医師会看護専門学校
松田勝也・助教	非常勤講師(病理学)	長崎市医師会看護専門学校
七條和子・助教	非常勤講師(病理学)	長崎女子短期大学

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
七條和子・助教	原爆死～ヒロシマ 72年目の真実～	NHK スペシャル	2017年 8月6日	最新のビッグデータ解析技術を駆使し、特定の被爆地や、死没日、死因に極端な死者数の偏りがある“原爆死ホットスポット”が存在していたことがわかった。なぜ“ホットスポット”は生まれたのか。そして人々はそこでどのようにして亡くなっていったのか。原爆投下から72年、知られざる被爆の真実に迫る。
中島正洋・教授	被爆臓器試料デジタル化	読売新聞	2017年 8月18日	アメリカから返還された被爆者試料のひとつであるガラス標本が長い年月の間劣化し始めている為、昨年度より高解像度のバーチャルスキャナーを導入し組織片のデジタル化を始めた。貴重な試料の半永久的な保存が可能となり、幅広く活用することで被爆医療の発展へつなげていく。
中島正洋・教授	父の献体は何のため訴えつづけた女性が48年ぶりに見た父の姿 被爆者調査の目的	中京テレビ	2017年 9月22日	ABCCに献体した父親の臓器と検体を決めた被爆者の再会の取材を通じて、家族の願いでもある貴重な被爆試料を用いた被爆

	は？			者研究を進めていく。
中島正洋・教授	ビンの中のお父さん	中京テレビ	2017年 9月23日	上記内容の続き。
中島正洋・教授	被爆者の甲状腺がん 調査	読売新聞	2017年 11月5日	平成29年10月20日に開催された第67回 知の拠点セミナーでの講演『放射線と甲状腺がん：ヒバクシャ研究からのメッセージ』の内容について掲載された。被爆地長崎にある研究機関として、長年にわたるヒバクシャ研究から判明している放射線の甲状腺がんへの影響を述べ、現時点での問題点を整理しそれらを解決し将来に役立てるための研究の方向性を考えていく。

○特筆すべき事項

- ①松田勝也・助教：European Society of Pathology “29th European Congress of Pathology Best Poster Presentation Prizes” 受賞
Significance of p53-binding protein 1 nuclear expression in urothelial tumours: Implication of DNA damage response in association with tumour grades